

事務 事業名	コード1	1470	中心市街地活性化対策事業	課	商工観光課				
	コード2		まちかどギャラリー管理【1472緊急雇用含む】 ☐ 主要事業	所属班	商業振興班				
				電話番号	62-5874	内線	なし		
政策 体系	基本方針	5	活力と躍動感に満ちたまちづくり	予算	会計		款	項	目
	施策	3	商業の振興	科目	一般会計		07	01	02
	施策の展開	1	中心市街地の活性化	根拠	旭市まちかどギャラリー管理運営要綱				
	基本事業	307	まちかどギャラリー「銀座」管理運営	法令					

1 現状把握(Do)

(1)事業概要

① 事業期間	② 事業の内容 ※何をどのようにする事業なのか、市民が理解できるよう記述する、行政用語は使わない
☒ 単年度繰返 ☒ 平成 14 年度～ ☐ 開始年度不詳 ☐ 期間限定複数年度 平成 年度～ 平成 年度まで ※全体像を記述⇒	まちかどギャラリーは銀座通りにあり、色々な団体が、美術作品や写真等の展示・鑑賞、イベントなど、多目的に利用できるスペースを提供しています。また、商店街へ来店した方の休憩スペースとしても利用されています。 これらは、展示・イベント等でギャラリーに来館した方に商店街へ足を運んでもらう等、人の流れをつくり集客力を高めるための事業です。 また、緊急雇用創出事業により平成21年11月から管理人を配置したため、毎週水曜日と年末年始以外は開館することが可能となった。(平成25年3月31日で終了) 【業務の流れ】 ・使用団体の管理。許可申請書を受付、内容を審査、許可書渡す。管理日誌の確認及び管理人の対応 ・ホームページ、広報に予定掲載、まちかどギャラリー内のトラブルに対応。 ・清掃、管理人は委託。＜管理人業務＞受付、他

(2)トータルコスト

① 事業費の内訳(費目等)		単位	21年度 (決算)	22年度 (決算)	23年度 (決算)	24年度 (計画)	25年度 (計画)	26年度 (計画)
消耗品費、光熱水費、管理委託料、建物等借上料、緊急雇用費		事業費						
財源内訳	国庫支出金	千円						
	都道府県支出金	千円	710	1,890	1,841	1,912		
	地方債	千円						
	その他	千円						
	一般財源	千円	2,528	2,460	2,453	2,654		
② 延べ業務時間の内訳		事業費計(A)	千円	3,238	4,350	4,294	4,566	0
利用申請の受付・決裁・許可 0.5時間/件×26件 =13時間		人件費計(B)	千円	205	224	224	224	0
ギャラリーの点検、連絡調整 36時間		トータルコスト(A)+(B)	千円	3,443	4,574	4,518	4,790	0
管理日誌の確認、データ整理 10時間								

(3)事務事業の手段・目的・上位目的及び対応する指標

手段	① 主な活動	⑤ 活動指標名	単位	21年度 (決算)	22年度 (決算)	23年度 (決算)	24年度 (計画)	25年度 (計画)	26年度 (計画)
	23年度実績(23年度に行った主な活動) 利用申請の受付・決裁・許可 ギャラリーの点検、連絡調整	ア 街角ギャラリーの開館日数	日	227	307	311	311		
目的	24年度計画(24年度に計画している主な活動) 利用申請の受付・決裁・許可 ギャラリーの点検、連絡調整	イ 利用団体数	団体	33	32	26	30		
		ウ							
目的	② 対象(誰、何を対象にしているのか)	⑥ 対象指標名	単位	21年度 (決算)	22年度 (決算)	23年度 (決算)	24年度 (計画)	25年度 (計画)	26年度 (計画)
	市民	ア 中心市街地商店街の店舗数	店	183	168	160	160		
目的	③ 意図(対象がどのような状態になるのか)	⑦ 成果指標名(考え方)	単位	21年度 (決算)	22年度 (決算)	23年度 (決算)	24年度 (計画)	25年度 (計画)	26年度 (計画)
	・毎日多くの人々がギャラリーに訪れる ・ギャラリーに来た人が商店街の他商店に立ち寄る	ア 日常的なギャラリー活動における総来館者数	人	6,468	5,590	5,096	6,000		
上位目的	④ さらに、どんな上位目的に結び付けるのか	イ 来館者のうち、他商店に立ち寄った人の割合	%						
	・中心市街地の商店が活性化 ・空き店舗を減らす	⑧ 上位成果指標名(考え方)	単位	21年度 (決算)	22年度 (決算)	23年度 (決算)	24年度 (計画)	25年度 (計画)	26年度 (計画)
上位目的		ア 商店街の商品販売額	円						
		イ 空き店舗率	%	19.6					

(4)事務事業の環境変化、住民意見等

① 開始したきっかけは何か？どんな経緯で始まったか？	② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか？開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったか？	③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？
中心市街地の活性化を目的に、美術作品等の展示、鑑賞及び多目的に利用できる場所として設置。また、空き店舗対策の一環として開始。	中心市街地の商店数、来客者数は減少している。ギャラリー展示者、来館者共にほとんど固定されており、また減少している。	展示者にとっては、いい展示スペースとして需要がある。 近隣住民からは特に意見等はなく、利用者側からは販売行為を行いたいという要望がある。

事務事業名	中心市街地活性化対策事業 まちかどギャラリー管理【1472緊急雇用含む】	課名	商工観光課	班名	商業振興班
-------	---	----	-------	----	-------

2 評価(Check1)担当者による事後評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？意図することが上位目的に結びついているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 結びついている ⇒【理由】 ギャラリーや商店街の他商店に立ち寄ることが空き店舗対策や商工業の振興に結びつく。
	② 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 適切である ⇒【理由】 目的としてはギャラリーや商店街の他商店に立ち寄ることで、妥当である。限定・追加することはない。
	③ 行政関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して実施すべきか？	☒ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☐ 妥当である ⇒【理由】 現状のままでと市が税金を投入して行うのには疑問がある。
	④ 成果の現状水準 あるべき水準や目標に達しているか？近隣市や類似団体と比較してどうか？	☒ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☐ 妥当である ⇒【理由】 ギャラリーの来館者が商店街の他商店に立ち寄る人が少ない。主に文化展示スペースとなっている。
	⑤ 成果の向上余地 次年度以降の成果向上が期待できるか？事務事業を取り巻く環境変化等を考慮するとうか？	☐ 活動量を増やせば成果は向上する ⇒【理由】 ☒ 活動量を増やさなくても、やり方を工夫することで成果は向上する ⇒【理由】 ☐ 活動量を増やしたり、活動を工夫したりしても、今以上成果は向上しない ⇒【理由】 ギャラリー利用の大半が文化作品の展示会になっているため、イベントなど多目的な利用を促進させることで成果向上は期待できる。また、ギャラリーの名前、雰囲気の変更などの工夫でも成果向上は期待できる。
有効性 評価	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業の他（民間・国県を含む）に方法があるか？ ↓ 他に手段がある場合 (1)具体的にはどのような事務事業か？ (2)類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☐ 他に手段がある ↳ (1) 事務事業名：() (2) ☐ 統廃合ができる ⇒【理由】 ☐ 連携ができる ⇒【理由】 ☐ 既に統廃合・連携している ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 類似事業がない ☒ 他に手段がない ⇒【理由】
	⑦ 事業費の削減余地（表面トータルコストの事業費部分） 事業費を削減できないか？（経費の精査、過剰仕様の適正化、回数削減、住民の協力、アウトソーシングなど）	☒ 削減余地がある ⇒【理由】 ☐ 削減余地がない ⇒【理由】 管理委託料（清掃等）を削減する余地がある ギャラリー清掃は利用団体に最後までしてもらうようにする
効率性 評価	⑧ 人件費の削減余地（表面トータルコストの人件費部分） やり方の工夫（業務プロセスの改善など）や臨時職員の活用・委託により、正規職員の延べ業務時間を削減できないか？	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 まちかどギャラリーの管理を行う以上削減の余地は無い
	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☒ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☐ 公平・公正である ⇒【理由】 主に利用団体の関係者の方達しか受益を受けていない 利用団体がマンネリ化している 利用者への費用負担も検討

3 評価(Check2)担当課長による評価結果と総括

(1) 1次評価者としての評価結果 ① 目的妥当性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり ② 有効性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり ③ 効率性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり ④ 公平性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり	(2) 全体総括(振り返り、反省点) 単に文化作品等の展示・鑑賞の場にとらわれない施設の活用について今後進め、同施設が空洞化する商店街の活性化活用の一助となる施設としての活用を進める。(展示物の販売及び期間を限定して有償での商品紹介も視野に入れた利用を検討。)
---	---

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(Plan)

<